

2018年9月15日発行

第22号

◇ 運営の理念 ◇
 いつも明るく
 物事を正しくわきまえる
 そして人と仲よくできる
 子どもを育てる事を
 理念とします

学園通信

杉の子



発行

社会福祉法人
光明会杉並学園

〒168-0081 東京都杉並区宮前3-10-8

TEL 03-3334-4941

FAX 03-3334-7905

HP アドレス

http://sugigaku.web.fc2.com

着任のご挨拶

施設長 麻生 信也

この春に着任しました麻生信也と申します。どうぞよろしくお願いいたします。杉並学園の入り口にある門柱には「東京市」と書かれた表札が掲げられています。園長室には創設（昭和8年）当時の様子が収められたアルバムが大切に保管されており、壁には丸坊主やおさがりがみの子どもたちが写った写真が飾られています。森芳俊先生が興され、森節雄先生が引き継がれた杉並学園は地域の皆様と共に長い歴史を刻んで参りました。重ねた歴史の尊さに圧倒されるばかりです。

救貧事業としての取り組みは時代の変遷とともにその役割を大きく変容させてきました。現在では、児童虐待が社会全体の問題であると認識されるようになりました。児童養護施設には、心の傷を癒し家族の力を再生することや子どもたちが持つている力を引き出し、社会人としての自立を支援すること等が求められるようになりました。

おむつが汚れた時、どんなに泣いても気にかけてもらえなかった子どもたち。絵本を読んでもらったこともお話を聞か

せてもらったこともない子どもたち。いつ終わるかかわからない暴力に怯えながら暮らしてきた子どもたち。学用品や制服を準備してもらえなかった子どもたち。こうした辛い経験は子どもたちが生来持っている生きる力に大きなダメージを与えるようです。杉並学園で暮らす子どもたちが生きる力を取り戻し、持っている力を発揮するにはいくつもの葛藤を経なければなりません。葛藤を抱える子どもたちを支え、子どもたちとの絆を深めるために職員と力を合わせて取り組み決意です。

最後になりましたが、皆様方にはこれまでと変わらぬご支援やご指導をいただけますようお願い申し上げます。



訃報

当法人前理事長・森節雄儀（享年86歳）、かねてより病氣療養中のところ、去る5月19日に永眠いたしました。生前のご厚誼に感謝し謹んでご報告申し上げます。

杉並で生まれ育ち、都立西高等学校・早稲田大学卒業後は10年間の日本赤十字社勤務を経て、昭和38年に杉並学園に入職、昭和59年に当法人創設者であり初代理事長・森芳俊の逝去に伴い理事長兼園長に就任し、以後、平成21年までの46年間にわたり杉並学園の子どもたちや職員と起居をともにし過ごしてまいりました。故人の葬儀にあたりましては、学園内「三帰堂」にて浄土宗・新光明寺（小田原市）より森芳秋導師のもと、親族のほか生前故人と親しくしていただいたご友人、福祉業界ご関係者、卒園児童や元職員など、誠に多くの方々に見送っていただきながら思い出とともに極楽浄土へ旅立ちました。

ここに改めて故人の冥福を祈りつつ長年にわたる尽力に深く感謝するとともに、お支え

いただいた多くの方々に対し、故人になり代わりまして厚く御礼申し上げます。合掌（長女・脇田朋子、二女・森圭子）



かえでホームレク

8月14日（火）に児童の希望で山梨県の富士急ハイランドに夏レクで行って来ました。朝は7時にはホームを出発して、10時には現地に到着していました。

東京も暑い日が続いていますが、山梨県もとても暑かったです。ですが、児童らにとってはそんなことは関係なく、暑さを感じるよりも楽しさが勝っているようでした。



この写真は、前述にもありま

すが、当日はとても暑く参加児童と職員で水上ジェットコースターにのるため並んでいた待ち時間に撮った写真です。サメが大きな口を開けているのを見つけると、児童が真っ先に走り出し「見て！」と嬉しそうに言っていました。

富士急ハイランドでは絶叫系のアトラクションを楽しむ児童、迷路やお化け屋敷を楽しむ児童等、普段の生活ではなかなか見ることが出来ない児童の様子を見ることが出来ました。2枚目の写真は、職員は写っていませんが児童と職員が同じアトラクションに乗ったときのワンショットです。



楽しい時間はあっという間に過ぎるもので9時間も滞在した富士急ハイランドともお別れです。レクの最後に各児童が好きなお土産を購入していました。児童は名残り惜しそうにしていました。